



理事長 **岡本 浩幸**

ごあいさつ

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年も地域の皆さまに当金庫をより知っていただくため、ディスクロージャー誌を作成いたしました。ご高覧のうえ当金庫へのご理解を一層深めていただければと存じます。

令和6年度を振り返りますと、国内経済は多くの産業で業況が改善し、特に宿泊業や飲食業などインバウンド消費に関連したサービス業が活況を呈しております。製造業も海外経済の回復に支えられ輸出が持ち直しており、また、情報通信サービス業でも企業のデジタル化への取組みや人手不足解消に向けたソフトウェア投資等が急増するなど、国内経済は全体的に回復基調にあります。多くの企業で収益が増加しており、春闘では33年ぶりとなる賃上げが実現するなど、国内経済は「賃金と物価の好循環」の実現に向けて着実に前進しております。これを受けて日本銀行は政策金利の引き上げを実施し、10年以上に及んだ異次元緩和に終止符を打ち、我が国は「金利のある世界」へと踏み出し始めました。

こうした中で、熊本県内経済も緩やかに回復しており、特に半導体生産の世界最大手であるTSMCの熊本進出は、熊本県内に多大な経済効果をもたらしており、その波及効果は今後も拡大することが予想されます。

このような中、当金庫の令和7年3月期の業績につきましては、会員数23,880名、預金積金206,062百万円、貸出金107,565百万円となりました。収益につきましては、業務純益456百万円を確保するとともに、当期純利益は367百万円を計上いたしました。また、経営の健全性の指標である自己資本比率につきましても、国内基準である4.00%を上回る10.20%となっております。

さて、令和7年度は新しい中期経営計画「2030ビジョン」を策定し、新たなブランドスローガンとして「いつも、近くに。いつも、そばに。～Thinking Bank～」を掲げました。中期経営計画では、お客さま・職員・地域社会に向けた3つの使命に取り組み、地域社会に貢献し続ける金融機関となることを目指します。今後も地域経済及び地域のお取引先を守るために、環境や時代の変化に柔軟に対応し、地域やお取引先のニーズに適切に応え、しっかりとしたガバナンスのもと地域経済の持続的発展に鋭意取り組んでいく方針であります。

これからも「中央しんきん」は、皆様に寄り添い、ともに歩む金融機関として地域に貢献して参りますので、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年7月

